

令和6年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立新宮高等学校（全日制） 校長名：下村 史郎

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

- ・生徒や地域の期待に応える質の高い教育の実践を目指す。
- ・知・徳・体が調和し、地域社会や次世代の日本社会、国際社会におけるさまざまな分野で活躍できる生徒を育成する。
- ・知識や技能を活用し、課題解決に向けた取り組みを主体的に進められる生徒を育成する。
- ・思いやりがあり、多様な他者とより良い方向を目指してともに活動できる生徒を育成する。

学校評価の公表方法

振学会総会や学校運営協議会等において、保護者や学校関係者に公表する。また、ホームページ上にも記載し、公表する。

現状・進捗度	A	十分に達成している。	(80%以上)
	B	概ね達成している。	(60%以上)
	C	あまり十分でない。	(40%以上)
	D	不十分である。	(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組			評価（1月27日現在）			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	生徒が主体的に学びに向かえるよう働きかけを強め、生徒一人一人の学力の定着と向上を図る。	B	授業時間を確保し、授業規律を保持する。	年間授業計画の100%実施とチャイム授業の実践。	A	年間授業計画通り、チャイム授業とともに実施できた。	学力の定着に向けて、量的な設定は適切に行え、実施できているため、質的向上を図る具体的取組を設定する。自律性の高い学習者育成の観点から設定する。
			研究授業や公開授業を実施し、教科指導力を高める。	各教科年間2回、研究授業を実施する。	A	計画に加え、他の機会でも研究授業を実施した。	
			計画的にテストや補習を行う。ICTを効果的に活用する。	テストや補習が計画通り実施できたか。ICTの活用が進んだか。	B	計画通りに実施した。ICTは探究活動への活用が課題。	
2	大学や諸機関と連携して、探究的な学びや学際的な学びに取り組み、その質を高める。	C	探究学習や探究的な学びの場面を授業や諸活動で多く持つ。	探究的な学びを取り入れた研究授業を行う。	A	研究授業を探究学習に限定して実施した。	外部との連携強化と発表する力の育成が課題である。生徒の探究活動における大学や諸機関等の連携先を開拓し、探究活動の深まりを目指す。自分の考えを発表する力を育成するプログラムを導入する。
			「くまの学彩」や総合的な探究の時間の充実を図る。	活動成果を学校外で発表する生徒が増えたか。	C	学校外に発信するところまで至っていない。	
			大学や諸機関との連携を強め、学際的な学びの実現を目指す。	既存の連携の充実と新たな連携の構築ができたか。	B	教員研修等で連携。生徒の活動での連携には至っていない。	
3	キャリア教育を充実させ、生徒一人一人の進路意識を高めることで、希望進路の実現を図る。	C	進路検討会やA S等を計画的に実施し、進路情報を提供する。	進路指導年間計画に沿って着実に実施できているか。	A	年間計画通りに実施できた。	校内の分掌間の連携を更に密にすることで、キャリア教育や多様な受験形態への対応等を充実させるとともに、生徒の進路実現への思いが学習意欲や進路結果に繋がることを目指す。
			継続的な個別面談・進路相談及び三者面談を実施する。	個別面談及び三者面談を年間5回/1人以上行う。	B	回数としては概ね実施できたが、更に質の向上を目指す。	
			前年度の進路状況を総括し、進路実現を支える対策を立てる。	現職教育や他校等との交流会を複数回持つ。	B	校内での活動は行えたが、外部から学ぶことに課題。	
4	家庭や地域とも連携しながら、生徒の活動機会を充実させることで、豊かな人間性を育み、自己肯定感の高まりを促す。	C	生徒会活動や部活動を通して、生徒の主体性や社会性を育む。	生徒会活動や部活動が活性化したか。	B	生徒会活動において、公約実行への取組が起こった。	外部との連携機会の充実を図る。多くの人と関わる機会を設けることにより、生徒の社会性を育み、自己肯定感の高まりを促すとともに、教職員の負担軽減にも繋げる。
			地域と連携して学校外での活動機会の充実を図り、参加を勧める。	課外活動やボランティアに参加した生徒が増えたか。	C	既存活動への参加は継続したが、新たな機会設定が課題。	
			保護者・地域と連携して規範意識を重んじる生活指導を行う。	定期的な校門街頭指導、個別指導、校内美化等を実施する。	A	計画通りに実施。清掃活動で新たな取組が生まれた。	

学校関係者評価（2月20日実施）

- [重点目標1]
- ・十分取り組めており、着実な成果が得られている。
 - ・具体的取組が目標と合っていない。
 - ・生徒の個に対する働きかけが不十分なため、個の確立がなされていない。依存心の強い生徒が多い。
 - ・主体的な学びには、正解の定まらない問いを追究する単元計画（構想）が必要である。
 - ・知識はもちろん、学び方を学ぶことが主体的に学ぶ根幹になる。探究活動等を充実させ、自ら問題発見や解決のできる生徒の育成を図ってほしい。
- [重点目標2]
- ・良好な成果が得られている。外部機関との連携には学校の立地環境上ICTの整備が必要不可欠である。
 - ・教員の取組においては進捗が見られる。生徒も校外に発信し、外部と直接関わることで、好奇心や探究の質が高まっていくことに期待する。
 - ・地域性もあって十分とは言えない。地域にある人材の特性をどう生かすかが課題である。
- [重点目標3]
- ・計画に沿って適切に取り組んでいる。日常の教育活動（学習活動）と進路との繋がりをより強化する取組を計画してもよい。
 - ・面談は有効。面談の中で、適性を見出してほしい。
 - ・先輩から助言をもらえる機会があるとよい。
 - ・多様な受験方法があり、生徒自身の選択が重要。
 - ・キャリア教育とは、学びの意味の確認教育である。濃密で問題意識豊かな高校入学時点でのモチベーションが不足しているのではないか。
- [重点目標4]
- ・良好な成果が得られている。既存の活動と生徒の自己肯定感との関係を再考してみてもよい。
 - ・既存の活動の継続により新たな取組も発想される。
 - ・生徒から地域と交流したいという要望があり、生徒が地域の大人と関わる機会を増やしたい。生徒の可能性を広げられる。
 - ・素直な生徒が多いが全体的に単調な印象を受ける。